

## 「樋口真吉顕彰会」 入会のお願い 連絡先 090-5715-0001 大杉

郷土の偉人、樋口真吉(1815年～1870年)は、幡多郡中村(現四万十市中村小姓町)に生まれる。幼い時から文武両面に優れ、19歳で学問に志し遠近鶴鳴に学び、のち諸国を遊歴して剣術・槍術・砲術を修行、江戸では兵学者の佐久間象山から砲術を学びました。23歳のとき筑後柳川の大石神影流に入門し、印可(免許)受け帰郷後、中村に家塾を開き、延べ700名余りの門弟(剣術・砲術)を育てています。又、中村に始めて文武館(現在の学校)をも創設しています。土佐西部における勤王活動の盟主として知られ、戊辰戦争では、幡多地方から数多くの門下生を土佐藩の精鋭隊として編成し従軍、数々の功績を残し、凱旋後留守居組に昇進。明治2年、明治天皇侍従長徳大寺家により、公設秘書官として選任されたが翌年6月14日、東京で病没。享年56歳。墓は四万十市土生山に現存し、島村速雄海軍元帥撰文による彰徳碑が為松公園三の丸にある。また、樋口真吉は、「坂本龍馬が最後に信頼した人物」としての史料が見つかっている。身の危険を感じた龍馬は、友人の望月清平に「今いる近江屋が危ないので、樋口真吉に頼んで安全な隠れ家を探してくれ。」(原本は高知県文教協会が所蔵)と、手紙を出している。しかし、その願いは真吉には伝わらなかったと思われる。中村が生んだ幕末から明治の日本の大転換期、歴史の表舞台には出てないが、重要な構成員だった偉人・樋口真吉を、学術的視点を踏まえて顕彰し、地元の誇りとして、後世に語り継ぐと共に、交流人口の拡大(観光資源の掘り起こし)にも繋がることを目的とし、「樋口真吉顕彰会」を設立しています。趣旨にご賛同いただき、「樋口真吉顕彰会」にご入会賜りますようお願い申し上げます。

会長 安岡 明



広報活動等の協力金として年会費2000円を頂いております。